

6月8 - 12日週のドル円レビュー

June 15, 2009

米長期金利の上昇でドル堅調

High : 98.86 円 Low : 97.08 円

Close : 98.43 円

前週末の米雇用統計が予想より強めで、週初のドル円は一時 98.86 円まで上昇。市場は大量の米国債入札に注目、好調な結果であったため、10 年国債利回りは 4% 台まで上昇後、低下した。また株式市場は堅調な地合いを維持し、日経平均も 1 万円台を回復した。週中、ロシア高官による米国債から IMF 債への転換発言で一時ドル売りを誘発したが、方向感なく日替わり相場となり、ドル円は 97 円台から 98 円後半までのレンジ継続。また、原油価格は心理抵抗線を超え、73 ドルと記録的な水準まで上昇した。

6/8 (月) 98.54 円

欧州時間のドル円は 98 円前半で推移。NY 参入後、ドル円は高値圏 (98.25 - 73 円) で推移し、米株価の動きにつれて 98 円半ばで引けた。

6/9 (火) 97.40 円

ドル円は 98.50 円をトライしたものの届かず (高値 98.44 円)、上値が重くなると 98 円前半に反落。NY 時間に一部米系金融機関がユーロ買い推奨をしたこともドル売り要因となり、ドル円も 98 円を割りこんで 97.25 円まで下落した。

6/10 (水) 98.14 円

ドル円は 98 円台を回復したものの、上値は重く 98 円近辺で揉み合い。NY 参入後には米株の大幅上昇でドル円は 98.45 円まで上昇する場面も見られた。

6/11 (木) 97.66 円

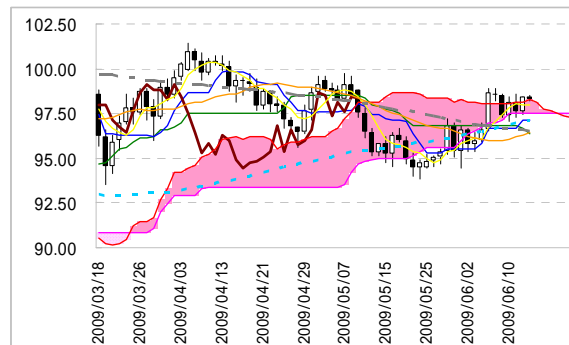
ドル円は欧州時間に 97.63 円まで下落後、98 円台を回復した。NY 時間は米債券利回りの上昇や米小売売上高を材料に 98.57 円の高値をつけたものの、その後 30 年債の入札が堅調だったことから利回りが低下、ドル売りにつながった模様。ドル円は一時 97.28 円へ。

6/12 (金) 98.43 円

ドルは週末の G8 を控えて堅調な動き、NY 時間に原油を含めたコモディティ価格の下落を受けて反発。ドル円はマクロ指標で一旦反落したものの、引けにかけて買われ、98.40 - 45 円の高値圏で引け。

	High	Low
6/8 (月)	98.86 円	98.20 円
6/9 (火)	98.58 円	97.25 円
6/10 (水)	98.45 円	97.08 円
6/11 (木)	98.57 円	97.28 円
6/12 (金)	98.43 円	97.47 円

ドル円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

99.80 (5月7日高値)

98.90 (6月5日高値)

= = 先週末の NY クローズ 98.43 円 = =

97.49 (日足一目均衡表・雲の下限)

96.51 (200 日移動平均線)

米国の重要指標結果

6/10 (水) [結果] (前回)

4 月貿易収支 [292 億ドルの赤字] (285 億ドルの赤字)

6/11 (木) [結果] (前回)

5 月小売売上高 [+0.5%] (-0.2%)

5 月小売売上高 (除自動車) [+0.5%] (-0.2%)

新規失業保険申請件数 [60.1 万件] (62.5 万件)

米 10 年債利回りが昨年 10 月以来の 4.0% 乗せ

6/12 (金) [結果] (前回)

6 月ミシガン大学消費者信頼感指数・速報値 [69.0] (68.7)

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 96.50 - 99.50 円

今週の焦点は、16 日ロシアで開催される BRICs 首脳会議の場で基軸通貨・準備通貨の新たな動きが出るかどうか。米国債から IMF 債へのシフトなどの議論が再度浮上する可能性もあり、要注意。さらに、長期金利の行方次第で株価が乱高下する可能性も秘めている。また、資源国通貨の急上昇懸念から自国通貨売り介入(ドル買い介入)の可能性も。この点からクロス円の調整売りも想定されよう。今後の米当局者の発言にも要注意。発言に揺れる動きと見るものの、ドル円の上値も重い状況の中、レンジ相場上限での展開と見る。